

血液疾患に対する細胞療法の進歩

科目責任者：遠 矢 嵩（内科学（血液・腫瘍））

I. 前 文

疾患に対する治療は手術や放射線、薬物療法などが主ですが、血液内科領域では1950年代から細胞療法・免疫療法として造血幹細胞移植（骨髄移植など）が行われ、70年近くにわたり様々な進歩を遂げて現在も難治性の血液疾患などに対して幅広く行われています。この10年程度でヒトの細胞を用いた細胞療法が様々な疾患に対して徐々に広まっています。本科目では、造血幹細胞移植の古くからの進歩、近年のキメラ抗原T細胞療法（CAR-T細胞療法）の臨床実装など、血液疾患診療の風景を劇的に変えた治療の醍醐味と最近の話題について概説します。

II. 受入可能人数

20人

III. 担当教員

遠 矢 嵩（内科学（血液・腫瘍））

IV. 学習内容

造血幹細胞移植、CAR-T細胞療法、その他の細胞療法に関する講義を中心としつつ、参加人数も考慮して抄読会形式やケースディスカッションを行います。それらを行う場合、論文の読み方に関する簡単なレクチャーも行います。

V. 学修の到達目標

- ・細胞療法の種類と基本的な作用メカニズム、治療の流れや主な有害事象について理解する。
- ・医学論文の探し方、読み方を理解する。

VI. 成績評価の方法・基準

以下とおり成績評価する。（ ）内は評価の割合。

小テスト（60%）、課題レポート（40%）

VII. 使用する教材・資料など

資料を配布します。

VIII. 質問への対応方法

以下に連絡してください。

Mail: t-toya@dokkyomed.ac.jp

IX. 求められる事前学習、事後学習及びそれに必要な時間

事前学習（0分）：特になし。興味があれば日本造血・免疫細胞療法学会HPの患者さん用説明（https://www.jstct.or.jp/modules/patient/index.php?content_id=1）を参照してください。

事後学習（60分）：細胞療法の種類、適応、有効性や有害事象について復習する。必要な場合は論文を読み、課題レポートを作成する。

X. コアカリ記号・番号

PS-01-03-18, PS-02-02-04, PS-03-04-25

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

解説ないしコメントを配布する。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	○
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	○

三
学
年